

日刊 發行兼編輯人 川崎文治 本社下町番地(電話六三〇番) 印刷所 常盤毎日印刷所



刊夕日七十二月九

定部金貳錢 廣五號十二 休日曜大祭 福島縣石城郡平町長橋町三五 發行所 常盤毎日新聞社 電話六三〇番

警察の危機 田中五郎

我國の警察は其の數多く組織の統一せる點に於て優秀なるのみならず警察官そのもの、義務を主んじ廉恥心を富む點に於て多くその比を見ず而も其の數は人口の割合に極めて多いのであるがともすれば其の任務の遂行上軍隊消防隊或は青年團等の援助を乞はねばならぬ状態にあるのは甚だ遺憾である故にこれが原因を探究し一刻も早く其の改善を期さねばならぬのであるが世

入往々警察改善の根本問題を論ずるに俸給増額を以てして居る成程物質萬能の今日比較的薄給な警察官に俸給を増加し能率をあげさせるとも一理かも知れぬが余は第一に必要と感ずることには國民に警察の事を徹底的に諒解して貰ひ國民が劈頭に立つて改善を圖り國民悉く警察となつて貰ふ事ある英國の如きは去る五月炭坑夫の大ストライキがあつた時國民は警察に同情し警察は冷静にしてよく事なきを得たが當時新聞紙が國民に警察の饑饉を題してげきを飛ばすや忽ちにして二百萬圓といふ巨額の金圓が集

活版印刷の御用命を御願致します

優美鮮明 嚙可速敏

常盤毎日印刷所 平町長橋町五三番(電話〇三六番)

まつたといふ程である (つづく)

秋が訪レマシタ 新型ノ折帽鳥打帽 子供帽モ澤山人荷シマシタ 四丁目 ツルヤ

平町紺屋町(縣社通り) オの部電話四六〇番

九月廿四日替り映畫 帝キネ芦屋派作 松本田三郎、明石緑郎、松枝鶴子共演 時代遊女と侍 全篇

帝キネ小坂派作 小島陽三、千草香子、尾上紋十郎共演 時代劇 照月院の方 全篇

マキノ關東社作 大谷友三郎、岩城秀哉、松浦月枝共演 時代劇 忘れ髪 全篇

帝キネ直營 有聲座

現代和泉屋太物店 全篇

梅毒 淋病 婦人病 淋病 皮膚科 泌尿科 性病科

腸胃 十二指腸 胃腸科 内科 外科

平町二丁目六

十月新發賣 各社レコード が揃ひました

蓄音器 樂器 專業 樂譜

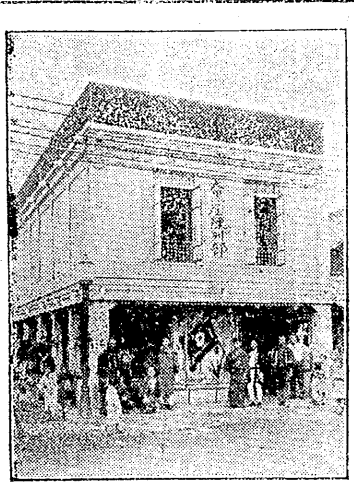
三幸堂

増築披露 祖元支那料理 喜來軒

近藤喜多治 平町紺屋町(電五四五) 女給三名至急募集

耳鼻咽喉科専門 大和田醫院 平南町(電話一七〇番)

ガラスと鏡は 柴山に願ひます 平町土橋



美衣表具 玉成堂 平町田町 元平陽女學校跡

現金月賦販賣

社會採用 申込メ

電氣時計 店頭ニ正確ナル時計ヲ取付 マシタ御通りノ際ハ御合セ下サイ

秋の夜長 には蓄音器 一家團樂 には蓄音器 一新譜各種取揃ました

平町四丁目 會田時計店 電話三六三

不思議に よく まむしの エキス 養命酒 横森醫學博士推薦 一圓二圓 山野邊藥局 平町五丁目

北陸電氣工業株式會社製 カーバイト 特約販賣 福島縣平町壺丁目七番地 合資 平銃砲火藥店 電話四四四番

元氣ある店に人集る 拾五歳以下の少年店員を募ります。よく將來を考へ他日立派な商人たらしめる方はお申出でを

店の組織(卸部一三丁目十五番地 卸部にて外交的手腕を養ひ、小賣部にて販賣仕入に熟達せしむ)

小間物商 大黒屋商店 平町三丁目 電話四二二六

眞正 盛岡製南部鐵瓶 御用ノ節ハ左ノ方法デ願ヒマス

一、日掛金十錢ヅ、……………(金七圓以内ノ品ハ)

一、日掛金廿錢ヅ、……………(金七圓以上ノ品ハ)

一、月賦販賣モ致シマス

南部屋(吉田) 平町南町廿九番地

地所埋立請負 弊社南町裏ニ土砂運搬軌道敷設中ノ處今般竣工事業開始致候ニ付全方面一般ノ地所埋立請負仕候間多少ニ拘ハズ御用命相願候

平町字四町目二番地 工榮商會

流血の慘を見ず 際どい處で一段落

櫻村署長の調停

問題の解決は東京で……
石城郡湯本町傾城トネル
工事場の人夫が東京深川の
土工三百餘名を迎へアワヤ
流血の慘を見ん形勢であつ
たが平警察署の水も漏らさ
ず

子分が殴らる

事件の發端

別項の如く事件の原因とも
いふべきものは磯谷氏に入
夫の仕送りをしてゐた湯
本町上澤徳治が磯谷氏がそ
の金を二萬餘圓未拂ひのた
めこれを差押へたのであつ
た磯谷氏が行衛を誨ました
あと同氏の子分である磯
内由松が引受けて工事をな
してゐたか差押へ處分をさ
れたので速水氏の子分大丸
庄吉氏が憤慨し差押へをな
さしたたのは磯谷氏のしわ
ごであらうと磯内の子分奈
良鐵三郎が殴打したのが發
端となつてそれが擴大した
ものである

平署の 健康診断

虎眼は酌婦に

石城郡中警察署では去る二
十一日より二十三日まで平
湯本小名濱の藝妓、酌婦、
娼妓、理髮業者、按摩及び
飲食物製造販賣人等接客業
者四千名に對しトラホーム
肺結核豫防法による健康診
断を執行したが前年に比し
受診成績頗る良好の由なる

も酌婦にトラホーム患者多
く疾患者酌婦三人中一人の
割合なるに藝妓には該病患
者の少き處より察するに兩
者接客の階級が自ら異なる結
果によるものらしく然るに
之に反し看護婦にトラホー
ム患者の比較的多きは如何
なる原因に依るものなるか
異様の感がある

四貫五百匁の石を 道連れとして自殺

離縁した妻に未練を残し 壽命を縮めた桶職

石城郡好間村大字北好間字
三反田古河炭礦居住北會津
郡館の内村大字新庄生れ桶
職深谷清喜(三七)は去る十八
日午後七時頃自殺せんと家
出を爲し右の袂に一貫五百
匁の石を入れた外に

主家に仇する 植田生れの男

植田生れの男

石城郡植田町青山貞(三七)は
久慈郡坂本村茂宮醬油醸造
所主であるが、

満鮮の旅から

曾我直治

(第三信)廿日午前八時釜
山着、早速眼についたの
は婦人の頭上運搬、鮮人
白衣の裝束、冠に粗髻と
長き煙管、特製のヤセウ
マの如き運搬具等々、府
の學務課の人の案内で公
立學校、普通學校、市場
龍頭山、鮮人生活の状況
等を見る、色々變つた事
も多々ある、廿一日朝雨、間
もなく止む、京城、壽松

赤井嶽に明す
尋常六年生が
一夜を



松茸のフライ

松茸の餘り大きくないもの
を選びまして、鹽水で洗ひ
厚さ一分位に薄く切ります
これにレモンの汁をしぼり
かけ、鹽胡椒をも同時に極

赤井嶽に明す
尋常六年生が
一夜を

驛長以下驛員の數 僅か十二名の平驛

夫れは今から卅年前 今では八十倍の發展

常警線を中心驛であり警越
東線の起點である平驛は東
北本線の關門を輓じ警越東
西線の

分岐路

また本縣の首都福島の二驛
を凌駕して昨今の乗降客は
實に夥しい數に上つてゐる
が磐城盆地平町の地に始め
て汽車が開通し黒煙を吐き
揚げたのは明治三十年二月
廿五日で今を去る三十年前
の昔で今日でこそ縣下にお

多數の 乗降客を吞

吐する點では第一位を占め
てゐるが開通當時に溯つて
見ると實に今昔の感に耐へ
ないものがある

昨今の 狀況は如何

當時上は驛長から下一掃
除夫に至る迄の驛員と名
の付く人間の頭數は驚く
勿れ十二名、それに正比
例して乗降客もまた一日
平均二百十名で當時余程
の物持ちか格式のある官
吏かでない限り大抵は親
護りのテクをやつた等と

伴つて 車掌監督の

増員、電力區、通信區等の
新設、また鐵道治療所等の
設置が主なる原因であるが
驛員のみでも百七十七名に
上つてゐる

平町人事

- ▲出生
△仲町一六 古市甚多氏四男光之
- ▲婚姻
△材木町一三 土木業佐々木一氏
(二八) 東白川郡宮本村鈴木ハル
- ▲死亡
△紺屋町八 永山ウメノ(二九)
- △田町六〇 當時東京市芝區露月町
安中サマ(七七)